

令和4年度研究推進計画

I 研究主題

互いを認め合い、共に生きようとする力を育む道德教育の創造

～考えを伝えあう授業づくりを通して～

II 主題設定の理由

1 アンケート結果及び考察

【令和3年度吉舎中学校校区児童・生徒 意識調査の結果】 (%)

質問項目	肯定率 4月	肯定率 12月
道德科の授業では、自分のことを振り返りながら考えている	83	86.3
道德科の授業では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしている	80.3	88.6
道德科の授業で勉強したことを、自分の生活にいかしている	78	85.6
今住んでいる地域が好きだ	88	94
今住んでいる地域のために、地域の行事などに参加している	86.3	85

これまでの成果としてどの項目においても一定の向上が見られた。しかし、児童・生徒の日々の姿から、互いを認め合う意識や自分の思いを伝え、共に学びを高め合おうとする意識に課題が見られる。

III 主題について

1 互いを認め合い、共に生きようとする力を育む道德教育の創造

- ① 互いを認め合う (自己有用感) (他者理解)
- ② 共に生きようとする (意欲)

IV 研究仮説

○ 道德科の授業において、主題観をもって教材分析を進め中心発問を設定することで、自分の考えをもち、協働的な学びにおいて自分の考えを表現したり友達の考えを聞いたりすることで、互いを認め合い、共に生きようとする力につなげることができるであろう。

V 研究の実際

1 主題観をもった教材分析に基づく中心発問の設定

道德科の授業で活用する教材を通して考えさせたい主題には、道徳的価値(価値理解・他者理解・人間理解)を指導者が意識することで、実態に応じた中心発問を設定することができる。

そのために主題と教材分析シートを作成し、それを指導案上に生かすことで、授業力の向上を図る。

主題と教材分析シート及び記述例

教材名	あいさつ運動	内容項目	B…礼儀
主題名	挨拶をすることの意味		
本教材における道徳的価値の理解			
価値理解 【主題の大切さ】	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶は気持ちをすっきりさせる。 ・真心は相手のことを親身に思うこと。 ・心で思うだけでは伝わらない。 ・挨拶が広がることで学校が明るくなる。 	予想する児	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶は相手を思うことが大事だな。 ・心で思うだけでは伝わらないから態度にして伝えるんだ。 ・挨拶で気持ちが明るくなる。

人間理解 【主題の難しさ】	・周りの言動（うわさ）が気になる。 ・自分も一緒に悪く言われたくない。 ・別に大きな声で言わなくてもいい。 ・恥ずかしい。	童の発言	・恥ずかしいから言えない。 ・自分だけ大きな声で言いたくない。 ・みんなが挨拶していないから、自分もしなくていいと思う。
中心発問 ※補助発問 【教材を通して 主題を深める】	◎「ぼく」が気恥ずかしさを乗り越えて、気軽に気持ちの良い挨拶ができるようになったのは、どんなことに気付いたからだろう。		・挨拶で明るくなれるんだ。 ・心で思っているだけでは変わらない。 ・道夫さんが挨拶が大切だと思った気持ちを自分も大切にしたい。
指導の工夫	自己との関り	自分の挨拶の仕方の振り返りを意識させる。	
	多角的・多面的	挨拶をされる側の思いを考えさせる。	
	自己の生き方につなげる	これからの挨拶に仕方について考えさせる。	

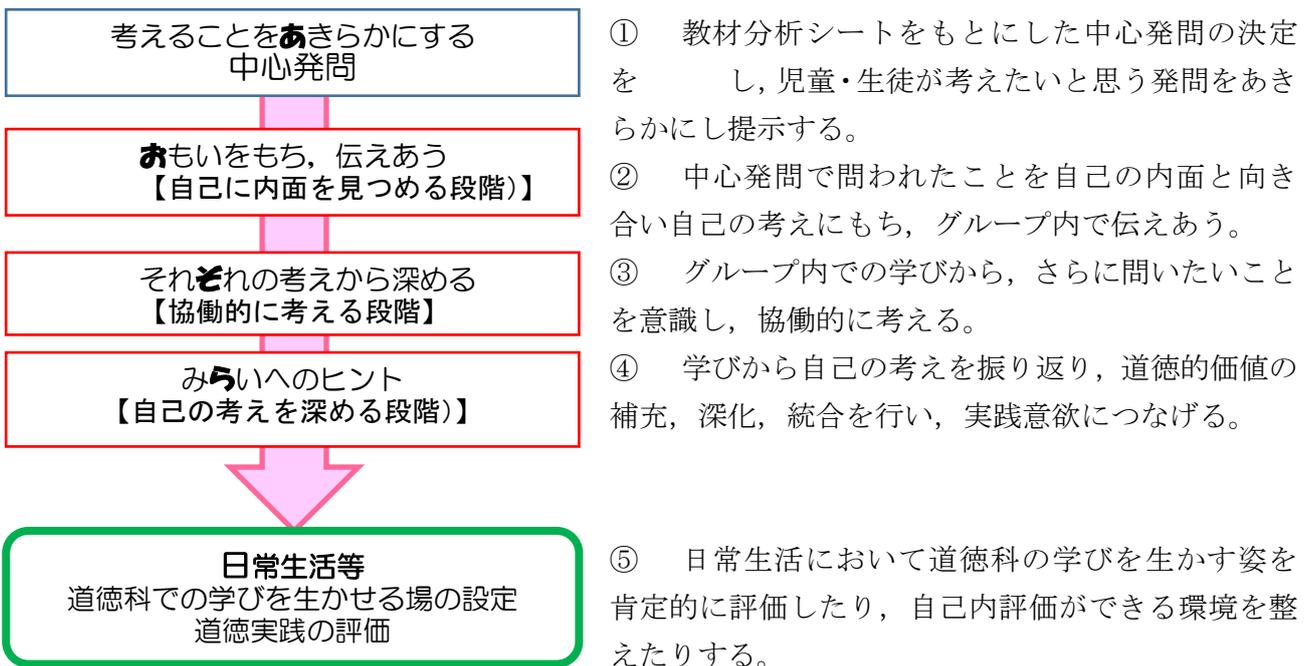
価値理解：人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解すること

人間理解：道徳的価値は大切なことであってもなかなか実現することのできない人間の弱さなどの理解すること。

他者理解：道徳的価値を実現したり、実現できなかつたりする場合の感じ方、考え方は一つではない、多様であることを前提に理解すること。※他者理解は授業内での気づきを重視する。

2 中心発問を軸にした授業モデル

道徳科の授業の中で自己を見つめ、考えを深めていく授業モデルを意識し、授業展開をすることで、道徳的実践意欲の向上を図る。



3 計画的な吉き舎りプログラムを生かした道徳的価値の深化

校内で統一した生活目標等をもとに、吉舎プログラムを計画し、全学級で統一した道徳的価値について考えることで、道徳的価値の深化を図る。

『吉（よ）き舎（やど）り道徳学習プログラム

道徳学習プログラム「吉（よ）き舎（やど）りプログラム」（以下「吉（よ）き舎（やど）りプログラム」とする。）は、カリキュラムマネジメントの視点に立ち、道徳科の学習と他教科等との

関連を明らかにし、児童・生徒がめざす姿に向かうため「意識の流れ」の構想をもち、意図的、計画的に学びを構成したものである。

吉（よ）舎（やど）りプログラム及び記述例

吉き舎りプログラム名	「あいさつで思いを伝えよう」
中心とする内容項目	B…礼儀
関連する内容項目	B…感謝

「あいさつで思いを伝え合おう」

過程	児童・生徒の意識の流れ	学校生活・教科・領域・行事	道徳科
発見 気づき 思考	<ul style="list-style-type: none"> ○自分達の挨拶を振り返ってみよう ○気持ちのよいあいさつってどんなのだろう ○あいさつで心が通じ合うんだ。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>（例）児童会目標 「気持ちのよいあいさつをしよう」</p> </div> <p>特別活動 ○気持ちのよいあいさつについて話し合おう。</p>	<p>あいさつ運動</p> <p>○あいさつをすることの意味を考えるを通して、挨拶で心が通じ合うことに気づき、進んで挨拶をしようとする心情を養う。</p>
実践意欲	<ul style="list-style-type: none"> ○感謝の思いを伝えたい。 ○様々な場面のあいさつに自分の思いをこめることの大切さを考えよう。 	<p>総合的な学習の時間 ○米作りを学ぼう</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>挨拶に思いをこめる。</p> </div>	<p>ソフトボールに恩返しを</p> <p>○ソフトボールに向かい合えなくなった時にこれまでの自分をふりかえるを通して、支えてくれた人への感謝の思いに気づき、感謝の思いを伝えていこうとする態度を養う。</p>

VI 検証指標

1 道徳アンケートの実施（※実際のアンケート用紙の項目は、発達の段階に応じて問い方が異なる）

【学習基盤づくりに関係する自己評価】

- 「協力してよりよい学級にしようとしている。」
- 「友達の考えを最後まで聞いている。」
- 「自分はだれかの役に立っている。」

【道徳科授業づくりに関係する自己評価】

- 「道徳科では、自分のことを振り返りながら考えている。」
- 「道徳科では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしている。」

【吉舎プログラムに関係する自己評価】

- 「道徳科で考えたことを、自分の生活にいかしている」

アンケート項目	肯定的評価		
	1学期	2学期	3学期
○「協力してよりよい学級にしようとしている。」	80%	85%	90%
○「友達の考えを最後まで聞いている。」	80%	85%	90%
○「自分はだれかの役に立っている。」	80%	85%	90%
○「道徳科では、自分のことを振り返りながら考えている。」	80%	85%	90%
○道徳科では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしている。	80%	85%	90%
○道徳科で勉強したことを、自分の生活にいかしている。	80%	85%	90%

